



ウル工久弘方心得書

武 9
342



諺曰桃李不言下自成蹊宜矣我宇留由頃
之妙且奇天下莫有不仰瞻其效驗如桴鼓
相應者也雖然其服餌將息之際施與之人
不能丁寧反覆盡其曉解則隋珠暗投豈得
有奏其效驗哉宇留由頃亦可以訴冤故別
為副本用國字而唯嚮導曉解如坦々大路
如昭々日星偏庶幾得所其宜耳四方我同
志諸君請諒此意幸々

健壽堂主人識



健書の次身得の事 七 持病の志得の事

功能病の志得の事 八 変病の類得の事

大便の功能得の事 九 業賣切し得の事

薬用不の店得の事 十 似あ業賣得の事

高申座の得の事 十一 引れらじ得の事

痰飲の志得の事 十二 業引り方得の事



① 能書の次第の簿の事

一ウルクス能書上色ハ功能の次第中色ハ因シ
換の次第内色ハ心印の次第けハ殺妻くわい一
よあひめら上相用ハ時ハき人きふん何種しよの諸
茶や減けん冬とう等らめくとてありつく未まるらん能ん心しんと
いそのどもその其その功能こうのう建たるるのの眼がんもも少す少す能ん成じやうた

鬼角きかくより一い業ぎやう同どう格かくよよおお能ん成じやうた
の通とほりり少す利りややびび振びとと伸しんくく振び振びるるこ
能ん又また今いま時ときの人ひとハハ氣きににどどかかくく長ちやう文ぶんの
能ん成じやうたたままととぬぬよよのの心しん印いんハハままをを
讀よみむむ一い又また少す少すのの心しん印いんハハ何なにのの功こう能のう
りり能ん成じやうたたままのの変へんありあり能ん成じやうたたままのの心しん印いんハハ何なにのの功こう能のう

お成らる能く三枚も書くよき丸の上
相用いしやうは失毫うくや下り下り猶又
先家様も能書く趣はるるは下り下り
ふしう用いし極多くは指図を下の

② 功能病ゆゑに成るの事

一 けウルス能きのうがきの分ぶん重じゆう通つうりお用は時ときに二

三時程さんじりやうのちふ病びやうゆゑに大小便だいせうべんおたりに
掃はらふ根ね源げんく。さうらふさうり極ごくく志しぬき
志しらり是これ等らかゝの業ごう力りきふたふ事ことさうら
合あひゆゑにやうさだ初はつめの男おとこの行ぎやう成なりる事ことお増まし
一度いちどは十粒じゅうりやく又また小色せうしき一披いつぱつてもお用は時ときに
病びやうのゆゑにやうさだ大便だいべんさうり小便せうべんを

全使ぜんしよよ趨きくく志しとと時ときにに便べんもも自じ然ぜんととおお志しちちるる薬やく用ようにに便べんもも病びょう除じゆくく

ららししぎぎふふ時ときにに又また大だい便べんもも自じ然ぜんととおお志しちちるる薬やく用よう

中ちゆうははよりよりほほららくくべべららゆゆかからら次つぎのの氣き味みよよ

ははららじじににもも余よ程ほどにに立たちち上かみりり然しかららししてて一いち宜よろしきま

志しししるる薬やく用ようおお止とめめららししてて又またははららじじのの病びょう除じゆくく

平へい常じょうににはは付つけ本ほん全ぜん使しよよににままででかかららししるる薬やく用よう

おお止とめめららししるる薬やく用ようおお止とめめららししるる薬やく用よう

③ 大便だいべん下げるる功こう能のうをを得とくくのの事こと

一いちけけウウルルエエスス茶チャ腹ぶく中ちゆうにに病びょうののゆゆええととああ便べんよよ

去こりり佳よるる良り劑じをを使し用ようすす大だい便べんををかかららりり

小便せうべん通とりりてて平へい日じつよりより次つぎのの二に便べんよりより

正せいもも又また病びょうををかかららりりししるる眼がんををおおおおええととああ便べんををかかららりりししるる

百の但し二便も酸鼻と母のけりけり又
 其病うきうき解け又大便もお志やりむ
 兼て本後とお用いし交大便のけりけり
 病と大便も去行右功能のけりけり事
 更に出たりて下は純よけウルエス功能未だ
 えずいゝぬ人初とお用いし折角病ゆるみ
 大便のけりけり却て病のゆるみお志いけの
 うきうき兼てやうふおやけ既よ全便も越く水
 兼用お止む人もけりあるよけ気は火ふんけ
 兼てお志い右ふんけ病のゆるみお志い
 大便のけりけりいゝぬも病をけりけり
 兼てお志い胸板をけりけりけり食物大よ

相^まと^との^{しん}身^{てい}體^{たい}の^{よう}よ^うる^る利^り方^{ほう}一^い切^{けつ}お^おま^まれ^れく
 自^じ然^{ぜん}と^す健^{けん}ち^ちの^りあ^あり^まる^る前^まも^も少^すず^ず然^{ぜん}不^ふ
 未^いだ^だ言^{ごん}え^えざ^ざ人^{にん}は^はけ^け伏^{ふく}谷^こ存^{ぞん}や^やさ^さび^ひに^に甘^{かん}
 有^ある^る後^ご妻^{さい}と^と中^{ちゆう}傳^{でん}り^り下^げよ^よま^まに^に人^{にん}老^{らう}病^{びやう}小^{せう}兒^じ
 凶^{きゆう}毒^{どく}の^りう^うく^く凶^{きゆう}毒^{どく}を^を下^げす^すべ^べし
 一^い疾^{じつ}積^{じく}留^{りゅう}飲^{いん}の^りう^うり^り魚^{ぎよ}毒^{どく}を^をあ^あ便^{べん}し^しり
 五

一^い疾^{じつ}積^{じく}留^{りゅう}飲^{いん}の^りう^うり^り魚^{ぎよ}毒^{どく}を^をあ^あ便^{べん}し^しり
 時^じぞ^ぞん^んく^く深^{ふか}く^く沈^{しん}入^{にゅう}積^{じく}り^りく^く一^い度^たふ^ふ殺^{ころ}す
 出^{しゅつ}入^{にゅう}の^りう^うり^り及^{およ}ぶ^ぶ事^じは^はお^お少^すず^ず然^{ぜん}不^ふ
 茶^{ちや}力^{りき}と^との^りう^うり^りあ^あく^く大^{だい}小^{せう}便^{べん}は^はけ^けら^らび^びに^に合^あは^はす
 根^{こん}元^{げん}の^りう^うり^り復^{ふく}よ^よい^いむ^むり^りや^やさ^さび^ひに^に合^あは^はす
 茶^{ちや}用^{よう}も^もお^おろ^ろし^し又^{また}茶^{ちや}用^{よう}毒^{どく}い^いま^まと^と時^じに^に魚^{ぎよ}毒^{どく}

熱^{そらうこ}此^{これ}より^{まひ}腫^ふ病^{びょう}と^しけ^けり^り諸^{あま}病^{びょう}小^{せう}変^{へん}じ^じる^るる^るの^のり
志^しく^くに^に此^{これ}ウル^{ウル}ユ^ユス^ス阿^あ蘭^{らん}陀^た國^{こく}一^{いつ}大^{だい}奇^き方^{ほう}集^{じつ}
カ^かも^もく^くも^も病^{びょう}の^の根^{こん}え^えより^{より}道^{みち}に^にま^まを^を輕^{かる}と^と重^{おも}
き^きれ^れ名^な別^{べつ}なく^{なく}建^{けん}よ^よ中^{ちゆう}後^ごいた^{いた}ま^まる^る世^せの^の
鳴^{なり}も^も出^いず^ず山^{さん}水^{すい}知^ち無^むく^く下^げの^の

④ 兼用不^あ以^い局^{きう}公^{こう}得^{とく}の^のり

一^{いち}種^{しゆ}と^と重^{おも}さ^さふ^ふよ^よし^しげ^げウル^{ウル}ユ^ユス^ス打^{うち}角^{かく}お^お熱^{ねつ}
い^いん^んい^いど^ども^もあ^あ一^{いつ}豆^{まめ}小^{せう}豆^{まめ}の^の兼^{けん}用^{りゆう}の^のり^りと^とぎ^ぎら^ら
肉^{にく}お^おち^ちり^りの^のり^りた^たく^く水^{すい}乃^のの^の薄^{はく}さ^さの^の
た^たら^らぎ^ぎら^らぎ^ぎら^ら又^{また}い^いち^ち水^{すい}濁^{じやく}る^る事^{こと}も^も病^{びょう}も^も
け^け理^りふ^ふし^しく^くけ^け亦^{また}効^{きう}無^むく^く人^{ひと}の^の再^{さい}後^ごの^の時^{とき}
此^{こゝ}兼^{けん}用^{りゆう}の^のり^りの^のり^りと^と中^{ちゆう}人^{ひと}も^も危^{あや}し^しく^くぐ^ぐや

又問あいつよいもととはし治せざる病の難ん症しやうふらつら
少せ色しき二に扱あやは又また扱あお用い病ゆらと重時じ
け素も利からぶ振と氣しらふ素用お止え
家か病根源げんと効毎まいいふと母親ちんのりるる
業やく用ようのこうざる時の効能のうけらるこうざらまお
あいりの自ぜん然ぜんと体アらはまさの人も心しんを
そのけこらへる心をすべしといふ



一何なん業ごうもも治ぢらるがらはる年ねん中ちゆう病びやう人にんを
とる言ごんひらがの難なん症しやうけいウルエスとて全ぜん快かいにし
能よくのもおびくや多年ねん持ぢ業ごうもお用いはるせ
病びやうとお疑ぎひい人にん世せ間かんよい程ほどういふ心を
おもつて能よくの治ぢせる心を強かく治せる心を

⑤ 南無の障りやの事

一 尚書の瘵の類却て胸後の氣味行く又熱身
の之合わく一切能去上は兼におきる此は尚書の
さうりい豆敷の内よまはゆる眼筋ふ足一程拍後
是て市山別る酒春の人よ日本を叙の良薬と
け事も能書ふお記ウな通けウルスとお用ひ

時酒も自然と来ふるを能授けりた人
幾日續と大酒いこしても身体はせも
障りは却る健しと酒は福もとおきみ
中は氣等皆方く出たりと下は作のよひ
お良何れの人も心たいと付兼て出の意を
心も廣く心もあつて下は

⑥ 痰飲の症未用急りて滞り積まりいひて
 ちいざれたるやうに病壯るる時に拘絞不満なり
 今きびしく痛む難養るる急にけウルス小色
 き扱も一夜にお用いひたがるる急急場まを
 上下より吐瀉するやうに病的中心にいひ
 けいしきお用いひ積りて急なり

⑦ 持病の症と得の變

一人の病の急殊に痰症留飲症積氣症を
 等の持病ある人は何程の良薬を
 一日を使ひてもいひても四季のかりき
 早急不感又、時作のさうに濕毒を又
 或は急やと号し又、急毒つらう急急

病の種又ハ持病ぢびやう生なじむるなしむししし物もの後ごの
元味もとみありし持病ぢびやうよび出いるる根こんえげんなりら統とよ
けウルユス能書のうしよれ通と者しやも服ふく茶ちやいん時じ二に切き
そらららいい水みづ流ながるる時とき法はふ一いつ水みづ溜たまりるる時とき濁にごるる
爰こゝももととのの多おほ年ねん持ぢ茶ちやよよ用もちるる人ひと々々諸しよ毒どく
其その時とき小こ柄がらとと大おほ小こ便べん珠しゆふふ公こうよよくくつつじじ一いつ切き
+

ととららりりたたしし胸ちゆう腹ふくののんん地ぢをを追おいいくく
多おほ年ねん用もちゆゆるる人ひと々々多おほくく及およぶぶ公こうよよ是こゝでで中ちゆう心しん又また
我われ病びやうよよおお名ないいとと合あひひ茶ちやとと用もちいいるる茶ちや
減へ茶ちやふふ味あじもも人ひと々々全ぜんくく茶ちや病びやうももととむむりり
中ちゆう心しんははああ信しん心しんををととりり一いつ茶ちや持ぢ病びやうのの症しやう
右みぎのの物ものああ細こいい中ちゆう心しん傳でんへへ来きりり

⑧ 変病の類の事

一醫書曰痰入痰入一及と云れ
百病少変ト惣身は禍いと云る甚
愛と云の病の根えと云れ又ハ只痰
積面飲の三症と云る変病といふは
第一の功ハ疾と消一切の病と云る也

悪毒をある人ふと云る血と云る健
も一葉方百病を治との法なり
傳授の秘方書ハ毒ハ少はれども是
皆能まふあはれと云る方病の葉
お守り却る伝授と云るお守り
あはれ書ハ一葉はれは痰積を飲

かざらば^{まて}お毒^{りくど}さる^られ病^{びやう}を根^{こん}え
より^{より}通^とむさ^さまり^せ金^{かね}使^{つか}ひ^ひる^るの^の薬^{やく}の^のま^まる
不^ふし^しの^の症^{しやう}は^はけ^け限^{げん}出^{しゅ}る^るま^まの^の下^げら

⑨ 藥賣切しり得のり

一 藥賣切しり得のり
ア^あり^り折^おり^りは^はま^まく^くべ^べら^ら下^げ降^かる^る廣^{ひろ}ま^ま
十二

ほ^ほほ^ほ又^{また}少^{すく}な^なく^く下^げり^り賣^う切^きし^しは^はて^てい^いる^る方^{かた}
間^ま接^ねい^いる^る一^一に^に折^お角^{かく}用^{よう}い^いか^か色^{いろ}い^い人^{ひと}
中^{ちゆう}途^とより^{より}少^{すく}な^なく^く用^{よう}お^お止^とめ^め病^{びやう}は^はま^まり^りに^にし^し
外^がの^の薬^{やく}は^はお^お用^{よう}い^いウル^{ウル}エ^エス^スの^の氣^きを^をぬ^ぬり
弘^{こう}正^{せい}方^{かた}は^は大^{だい}ぶ^ぶら^らり^り且^{かつ}い^いウル^{ウル}エ^エス^スの^の功^{こう}能^{ねい}を^をと
守^{まも}り^り折^お角^{かく}買^かひ^ひ来^きり^り人^{ひと}は^は少^{すく}な^なく^く賣^う切^きし^しは

時、據よんごころなく、似おあいの茶をお求もと免めん自然ぜんと
ウルエスの氣をぬく——ウチ茶ちや多おほく、又また
茶の色いろ扱つかお切き仕しくばい、やうき又また山さん崎さき
——ウルエス吞のえい入い入い大だい色しきとお求もとめ入い丸まる
初はつめく用もちい入い入い多おほく小せう色しきを——でいお求もとめ
やうき別べつる小せう色しきをど賣う切きし大だい色しきを——

おの紙しよはきくと西さい賣う方かたどもお求もとめて、お茶ちや一いつ
茶ちやおとやうき——茶ちやの信しん作さく——お求もとめ上じやう
能のう書がきを——お茶ちや只ただはら——お茶ちやをばり
お用もちいひてやばらぐい出来で切き能のうはらぐい
時とき、都つも多おほく方かたのさうりよお城じやうはらるる
ま——はらるるを——

一葉荷物道中あめとくぬまき又長ながの中なか
船底ふなぞこに積つおき水みづまじりけり一葉ひとは詰つめ
出いるも籠かごの中なかに詰つめ出いる本ほん切きりてふさふさ
てありも干ひて出いる中なかに詰つめ出いる功こう能のうのさうりこお中
一葉ひとは荷物にもの道中みちのちゆうとくぬまき又長ながの中なか
船底ふなぞこに積つおき水みづまじりけり一葉ひとは詰つめ
出いるも籠かごの中なかに詰つめ出いる本ほん切きりてふさふさ
てありも干ひて出いる中なかに詰つめ出いる功こう能のうのさうりこお中

⊕ 似おおの葉は賀が葉はのののの

十じゅう通つう来らいウルニス似おおの葉は賀が葉はのののの
少せうなる葉は々々不ふ以い既い少せう玉たまををよよ同どう名なといいじ
諸しよ國こく賣うままつりけり付つ此こ類るい一ひと種しゆ出いお記き
下したも一ひと店みせ中なかお葉はのの福ふくと合あ葉は左ひだり積つめてハ
却かへりててお葉はのの福ふくと合あ葉は左ひだり積つめてハ

同格よおん木中へくおん素心と候こい

新らるおん候空申傳ふ下

① 引れらししむるの事

一引れらしし配里方の候はぬ身も少なき

物なりとも山由名の通りより海へはるに

使よ少なき候様女の人よ山くまう

アトに引方より子殺りて武子殺すも

是合又み百殺も用とやとん中逢ふ

多く反古おん候はぬ益の候はぬに列して

ウルエス能士親の候はぬ素素とらぬ格

入る候はぬ付世活らぐら白折と

引方の言はぬ後より引候はぬをくれ

いづれせしは下は種くぬぐりて有るに
賣茶同様よおれりしと身も今
よもやまははらけ分ておれりしと身も今又
回ふ茶はみ紙を能きと志はておれり
今もこれあはくはも良色紙の能く出せり
中茶下別版よりれりしと茶よそへり
此茶一ひのかるくは茶菊をよ

一巻のくあきておれりしと茶よそへり
方ハ別版よ人とおれりしと茶よそへり
一回よおれりしと茶よそへりしと茶よそへり
よもやまははらけ分ておれりしと茶よそへり
中茶下別版よりと茶よそへりしと茶よそへり

二三ヶ月の内へお返し願ふに
其徳入用から何程もも當方より急度
お返す申はと忌言をして出度あうく申度斗
て下申はよく申さうせと申はむ申解り
の上は諸入用込入合も子建お入へは申
方ハ訂札らゝゝの掛入仕度身解り方

諸入用はもと申店より申度へたり申表上も
申上又功能各是へ仕せよお申上にお申子
申度活もお申らやと申はらと暫く所
一入申身より入申度活て下申
一申家極は申度よ申は訂札らし物入の
後ハ幾度と申て仕らば申速く急なや

戸越へ下りて又看板の後も進み糞糞
しし仕合せのしえどもお朱のり家根看板
あとも建看板までもしし望しし又しを
アト下しむ葉方の法式に付やう白文字
おてしなる合かんぢんめてし和製お朱のり
し腹にしししししししししししししししし

① 右に降く石の舟の腹打さるんすはり
今夜はらめ方しししししししししししししししし
しししし何卒しししししししししししししししし
方しししししししししししししししししししししし
しししししししししししししししししししししし
しししししししししししししししししししししし
しししししししししししししししししししししし
しししししししししししししししししししししし

はもづよくは板敷のりも枕交只看板
斗むらりのち並。茶の後の格別くべつの山さん負ぢや者も
以もたうくはたうたう何なの良よ茶ちやたりも
其その功能こうのうまあ後ごと徳とく人じん存ぞん心しんさび折せ角かく
引ひれらしはるうも余よ程ほどは方かたよ入い世せ話わも
お下くだしては多くは益ひやくよお成なり且かつ賣う茶ちや後ごは

人ひとの熱あついひに付つ功能こうのうの認しん合ごうとたう山さん風ふう
種しゆも不ふ下くだりては只ただ一通いつとうりの賣う茶ちやよ相あ
見み入い急きゆうおあはりやうさびいお申まう方かたよ六ろく効きう能のう
惟ただあつてんせとめりてをを團だんともお入いお
いけつ配はい仕してもは店みせ山さん母ぼ話わたり
がし時ときは山さん茶ちやよ何なにの取と合ごうも山さん茶ちやたりはる

かく
我々の賣茶の氣と化をうしつぐのも功を
らり下出ぬやなくいん或るは小の味は實
空のいせは活もり中時、急度及整茶仕
履さ後由方より年來のち足つたは
兎角はめ茶のい身よ入方具、いん斗一ツと
おんへの徳王一統、り方例年おき、いん
其の店くふより、り方人よ不同いんは
はれ、いんたる、りぬ、はげも、け、いん、大、功、能
は、りぬ、と、法、人、各、差、へ、本、仕、さ、せ、よ、お、ぬ、い
ま、ぐ、い、列、服、ふ、い、ん、せ、活、り、は、り、い、ん、これ、は、り、て
万、り、り、い、ん、方、の、取、保、ち、ぐ、い、ん、一、書、と、い、ん、
心、經、り、上、度、は、り、い、ん、は、り、い、ん、
二十

大坂本店	肥後屋大右衛門
江戸出店	大黒屋儀助
京都出店	数帳屋久三清
名古屋出店	長尾屋孫七
仙臺出店	小西利左衛門

諸國御取次店中様

与一、乃、是、ウ、ル、工、ス、某、社、英、用、以、方、能、書、通
 也、其、子、細、細、一、書、一、内、其、子、茶、法、先、方、也
 以、後、之、入、委、細、之、以、物、法、下、下、之、又、人、情、之
 用、之、以、入、進、之、以、乃、一、書、出、一、之、如、也、也
 以、屋、松、之、中、下、之、如、也、也

